

参考資料 4

第 1 回竹田市総合計画審議会

No.	委員からの意見
1	<p>資料 アンケート結果を見ると、自然環境に関する市民の満足度は高いが、今後の優先度は低いと考えられていることが窺える。管理しているからこそ、自然が守られていることを忘れてはいけない。何も手を入れなくて、現在のような自然になるわけではない。例えば、野焼きが出来ない範囲が増えると原野化してしまうので、それでは魅力的な自然環境にはならない。自然環境を維持するための営みにもフォーカスしていただけると良い。</p> <p>過去にはボランティアによる実施も試みたが、写真を撮影するのみで何もしない、作業の途中でどこかへ行ってしまったなど、思うような人が集まらなかった経験がある。野焼きは危険が伴う作業であるため、受け入れ側も知識・技術のないボランティアが入ってくることを嫌がる。例えば、阿蘇市ではボランティアを募ることと併せて、有料の研修も実施しており、研修に合格した人は野焼きに携わることができる。ボランティアは誰でも良いというわけではなく、教育された人であると大変助かる。</p>
2	<p>第 1 次竹田市総合計画の振り返りについて、基本目標 3 やすらぎと安心に満ちた支えあうくらしづくりでは、資料 - 2 達成度評価の結果と資料 アンケート結果の満足度には乖離があるようだがいかがか。</p>
3	<p>資料(4) アンケート結果から、保険医療サービスの充実の重要度が高いことが分かった。同じく重要度が高い就労環境整備についても、医療・病院は大きな役割を担っていると認識している。竹田医師会ではその期待に応えたいと思っている一方で、昨今医療分野でもルールが変わり、経営や人材確保が厳しい状況にある。こうした困り事は医療現場だけではないと思うので、例えば、姫島村の事例を参考に、困ったときにどんな分野の人でも手を挙げられるような仕組みが出来るとよい。お金のまわり方の面からも不公平のない竹田市になっていけば良いと思う。</p> <p>(市民が抱える困り事は、地域の高齢化が進んでいく中でこれからも増えていくだろう。これまでのやり方を変革し、部門を超えて多分野でつながることが出来るワンストップ相談窓口のようなものを作れないか)</p>
4	<p>仕事柄、外国人労働者と一緒に働いている。彼らは竹田市の住民票を持っている。今後も続く人口減少の中で、こうした外国人労働者の力を活用し、そして一緒に参加できるようなサービス・仕組みが構築されると良いと考える。</p> <p>(ボランティア、移住者、外国人労働者など新たな担い手を竹田市に受け入れ、上手く展開していくためには、仕組みをセットで行うことがポイントとなる。これまでの皆さんのお話を聞いていて、新たな担い手の方と連携できるような、サポートプログラムが充実されると良いと感じた。)</p>
5	<p>先ほど、庁内の評価とアンケート結果に乖離があるというお話が出たが、十数年前と現在では環境が変わってきているので、当時の計画が目指すところと、現在の市民の皆さんが求めることでは違っているのだと思う。そのあたりが今回のアンケートに表れたのではないか。第 1 次計画に掲げたことは着実に実施してきたということなので、次の展開として是非、現在の新しい課題や求められるものを分析し、計画策定につなげて欲しい。</p>
6	<p>竹田市には地域おこし協力隊の制度があり、任期満了後に畜産農家になった方が数名いる。彼らはそのまま竹田市に定住している。なぜ定住出来ているかを考えると、まわりの人間に育てられているからだと思う。横のつながりが出来ると、お世話になったから・大事にしてもらったからということで、市外に出にくくなる。こうしたつながりを大切に出来るよう、多かれ少なかれ行政のサポートは重要であると考えており、仕組みがあることで我々の組織としてもサポートしやすい。また、畜産農家は作っても売れない場合があるので、スタート時のみならず、開始後のサポートにも目を向けていただけると良い。</p>
7	<p>移住定住も重要なことであると思うが、もともと竹田にいて、これからも竹田に住もうとする市民、特に若者にも目を向けていただきたい。例えば農業で言えば、親元就農等の支援をもっと広げていけると良い。但し、手厚くすればするだけ良い、というわけではないと思うので、バランスの良いところで進めていければと考える。</p>

No.	委員からの意見
8	<p>これまで多くの移住者や若者を見てきたが、竹田に住もうとする本人がどの程度覚悟と計画を持っているかが最も重要だと感じている。こちらも出来るだけのサポートをしつつも、最終的に残るかどうかは本人次第である。そこを踏まえながら、若者が来やすい環境を整えてあげて、覚悟を持った人をサポートできる仕組みを構築出来ると良い。若者の話を聞いていると、正直甘いなと思うところもある。資金もなく浅い考えで来る人が多いように思うが、事業を起こすには500～1000万円必要である。そして、地域に溶け込むことも重要であると伝えなければならない。</p>
9	<p>もともとの市民が、移住者を受け入れる広い心があるかどうかで変わるのではないかと、という考えになった。連合会の会合では、父親の方で普段は参加していなかったけれど参加をして新たなことが知れたという意見や、会に参加することで学校や地域との連携を意識するようになったという意見があり、このような活動も意識を変えるきっかけになるのだと実感した。</p> <p>また、移住してきた方よりは、働く場を探しているもともとの市民を大事にして欲しいという意見もあった。一番は市民で、その次に移住者でも良いのでは、という趣旨であったと思う。地域おこし協力隊については、どのようなお金の仕組みであるかを知ってから、まわりの人にも説明出来るようになった。批判から入るのではなく、協力できる環境を作っていくことが大事だと考えている。</p>
10	<p>私は地域おこし協力隊の制度に大変助けられた。ある程度の収入をいただきながら、自分の理想とする地域福祉の実現に向けた活動をすることが出来た。それが今につながっていると感じている。一方で普段関わりのない方には、何をやっているのかと不信感を抱かれていたり、税金を使ってなど思われていたりすることも知っている。他の協力隊員からもそのような話を聞いたことがある。ただ、それはそれで事実であると思う。実際に、竹田市に定住している隊員もいれば、任期途中で辞めてしまった隊員、任期終了後に竹田から転出してしまった隊員もいる。地域おこし協力隊によってこれだけの成果があったという分析とは別に、今後のために、そのような隊員がなぜ辞めてしまったか、なぜ転出してしまったかを分析する必要はあると考える。私がなぜ今も竹田で活動をしているのかと考えると、最初に伺った際に、市役所の職員の皆さんがとても温かく迎えてくれて助けられたことがひとつだと思う。福祉に興味があると話したら、では一緒に行こう、とすぐに福祉の課に連れて行ってくれたことを今でも覚えている。</p> <p>(竹田市の中には地域おこし協力隊とそのOBの方がたくさんいて、もともとは移住者だったけれど地元の人になっている、そんなグラデーションが出来ていると思う。みんなのいえカラフルをはじめ、そのような方々は、地元の人と外から来る人をつなぐ役割を担っていると見えている。)</p>
11	<p>少しマイナスの発言になるかもしれないが、例えば今は人材派遣会社などもあり、すぐに人材を調達するサービスが存在する。若い人の考え方も変わっている。高速道路も近くまで来ている。ここで出来ないことを無理してやろうとしなくても良いのではないかと、どこかで線を引くことも必要では、という考えも自分の中で芽生えてきた。頑張ることも大事だが、頑張り過ぎてつぶれないように、考え方や方法を変えることも視野に入れていかなければならないと思う。10年先、20年先を見据えた舵取りは大変難しいものであるが、そういったことも皆さんと一緒に考えていきたい。</p> <p>(ご指摘のとおり、課題をしっかりと洗い出したうえで、将来を見据えて優先順位をつける必要がある。)</p>

No.	委員からの意見
12	資料(4)アンケート結果は面白い結果であった。私たちが活動するユネスコエコパークの理念は自然との共生である。現状では、校長会等でイベントを提案するが、年度の行事が決まっているために中々組み込むことが出来ていない。自然との共生につながる活動を、学校教育の中に組み込むことも視野に入れていただきたい。新たな連携により、未来の兆しが見えてくる。 (委員は観光者向けにも試行錯誤されてきたと思う。そのような方から、地元の学校と連携してやっていきたいという言葉が出てきて、力強く感じた。これまで外からの人、内の人という観点で話を進めてきたが、さらに関係人口という言葉がある。様々な濃さで地域と関わる、竹田にご縁のある人をどれだけ増やせるか。これは竹田市だけではなくて全国の自治体で取り組んでいる。例えば、住所は別の市だけれども竹田の高校に通っている高校生に、竹田って良いところだななどの程度思ってもらえるか。)
13	総合計画については、義務計画でなくなったとのことだったが、私は持続可能な自治体をつくっていくために必要な計画であると考えており、10年間でPDCAサイクルに則って評価・行動をしていけば必ず成果が出ると考えている。これだけの人口減少を迎える中で、一丸となって良い計画を作りたい。また経済界では、いかに順調に売り上げを伸ばしていても、働き手不足によって経営難に陥る企業が増えている。そこで我々は、雇用の確保の観点から、外国人技能実習生の受け入れに取り組む予定である。既に、今年の秋に第一陣を受け入れるための準備を進めている。国際交流・多文化共生を柱として掲げ、ひいてはインバウンド効果を狙って好循環を生み出していきたい。
14	私は合併当時に初代の観光協会長として就任して8年間務めた。当時は、地域の枠を外して皆でやっていこうという話をしていて、その時からすべては人であるという理念を持っていた。これまで、経済が落ち込んだときに楔を打ち込むのは観光であると考えてやってきたが、コロナ禍では観光が一番の打撃を受けてしまったので、これを盛り返したいという思いがある。中国の故事に「一年先を見る者は花を植え、十年先を見る者は木を植え、百年先を見る者だけが人を育てる」ということわざがあるが、総合計画の最終的な問題は人づくりだと考えている。今日も安永委員をはじめ、委員の皆さんから気が伝わってきた。総合計画は多岐にわたる内容で難しい部分もあると思うが、この審議会メンバーの思いやエネルギーが一緒になれば、帰ったあとにそれが家族に、職場に、まわりの人に広がっていくと思う。
15	資料(4)のアンケート結果を見たときに、不満が多いなと少しびっくりした。やりがいがあると思う。このアンケートをしっかりと分析して、次の計画に活かして欲しい。また、行政的なやり方・視点では、いろんな分野を均等に組み込んで総合計画をつくるのがセオリーと思うが、例えば、豊後高田市は子育てに注力しており20・30代の女性の人口減がないなど成果をあげている。竹田市には元気な高齢者の割合が多いことをはじめ、竹田らしさ、竹田はやっぱり違うと言われるような尖った魅力がたくさんあるので、特色をより伸ばしていく計画もマッチすると思う。
16	先ほども話に出たが、行政としての達成度と市民の満足度に差があることは私も気になった。時代の移り変わりや価値観の変容もその原因のひとつだと思うが、ここの原因を探っていくことがまず大事だと考える。学生へのアンケート結果に目を向けると、「竹田市にずっと住みたいか」の設問では、年齢を重ねていくにつれて点数が下がっていることが窺える。人口が減っては何事にも良い結果が得られないと考えられるため、子どもの頃の思いをずっと持たせてあげられるよう、地元の人を大事にする政策をつくって欲しい。また、今後の重要度では交通の問題が高いポイントになっていることを確認した。現在の形の交通は10年後にはなくなっていると予想される。運転手が高齢化によっていなくなることに加えて、運転を生業にしようと希望する若者は殆どいない。公共交通の在り方を根本から考え直さないといけない段階に来ている。我々も当事者として将来を一生懸命考えていきたいと思う。

No.	委員からの意見
17	<p>日本全国で人口減少がさらに進むことは明白で、法人企業が少ない竹田市においては、何をすることもお金がないと出来ないのが現実問題である。そのため、移住・定住施策により住民税等の増加につなげていきたいという行政の意図は当然と思う。一方で、地方の小さな自治体同士による人の取り合いや競争がいつ終わるのか、ということも危惧するところがある。外国籍の方も含め、その方々を取り巻く環境、人権のこと、多岐にわたり検討することが山積するだろうと予想している。組織のデータから申し上げますと、竹田市は夜間人口に比べて昼間人口の増加率が県内トップである。つまり、市外から竹田市に働きに来ている人がいても、そこに住まないということを表している。よく出る回答として、竹田市はアパートが少なく、しかも家賃が高いので住むことが躊躇われるという意見がある。補助金・助成金の工夫によっては改善が出来るのではないかと考える。また今後の審議会について、残りの回数も限られるので、それぞれの立場で有益な、深い議論をするために、行政から宿題を出していただくと良いのではないかと。</p>
18	<p>学校現場では、先生が不足していることを感じている。それらが就労環境の整備、学校教育の充実、子育て支援の充実にもつながっていくのだと思う。一度竹田を出た人材が、戻って来られる仕組みがやはり大切であると考えている。私は農業をしているため、子どもは竹田の親元就農の制度を利用して戻ってくることが出来た。でも当てはまる人ばかりではないと思う。また荻町では、ビニールハウスを建てるのが重労働となる高齢者を助けるために、その時期になると若者を4, 5人募って農家を手伝うことを続けている。この方法によって、高齢化が大変なところを補うことが出来ている。先ほどの野焼きの話にも共通するが、研修を実施して知識や技術を習得した人材を市内各地に派遣することはとても良いことだと思う。今いる人たちでも、80代には80代の出来ることがあると思うし、女性には女性しか出来ないこともあると思う。今竹田にいる人材でも、各分野で、年代別に、出来ることを増やせる研修が行われると良い。</p>
19	<p>これから基本構想をまとめていくにあたり、前計画の評価と市民の満足度が乖離していることの分析と、時代のニーズに合わせて何を加えていかなければならないかを考慮いただき、庁内会議で検討していただきたい。本日の議論では、困り事へのワンストップの支援、新しい担い手を迎えるにあたっての支援、今いる人材で出来ることを増やすための支援等が話にあがった。これらは突然連携出来るわけではないので、学ぶ機会の創出やそれぞれが接点を持てる仕組みの構築等、ぜひ民間活力を利用して進めていただきたい。プレイヤーと課題を洗い出すとともに、連携の仕組みを検討していただき、その上で、看板施策が各部門で上がってくると良いと考えている。最後に、委員の皆さんは総合計画の策定プロセスを発信できる貴重なメンバーであるため、自身のコミュニティなどに積極的に発信して欲しい。併せて、無い袖は振れないということにも留意しつつ、次の会議に向けて、現場の課題やニーズを拾う情報収集をお願いしたい。</p>